

学校教育目標	「豊かな心をもち、実践力のある子」の育成
目指す学校像	「愛情と信頼に支えられた、夢と希望をはぐくむ学校」 学べてよかった学校 地域とともにある学校・通わせてよかった学校 勤務してよかった学校
重点目標	1 情報端末を活用した学びの自律、個別最適化と協働的な学び、探求的な学びの充実 2 深い児童理解に基づく生徒指導と関係機関と連携した心のサポート体制の充実 3 コミュニティ・スクールとしての理念・方策の共有とスクール・コミュニティとしての実践 4 子どもが安心・安全に過ごせる教育環境の整備 5 実践的な教職員研修と一人ひとりの教職員が支え合い、高め合う、同僚性の高い職場の実現

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和8年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p><現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査結果では、国語、算数ともに全国平均よりやや高く市平均と同程度の結果である。</p> <p><課題> ○国語の話すこと・聞くこと、算数のデータの活用にやや課題がある。 ○読書習慣に関する項目で全国、市と比べ平均より上回っているが個人差がみられる。</p>	・一人一台端末の活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	<p>①各教科等のねらいの達成に向け、一人一台端末を積極的、効果的に活用し「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」の視点に基づく個別最適な学びに向けた授業改善を行う。</p> <p>②不読率の改善に向け、学校図書館等と連携を図り、朝読書をはじめとした読書活動を推進する。</p>	<p>①児童が行う「学びの指標」アンケートの調査結果による平均値が、3.4ポイント以上とすることができたか。さらに、児童が行うワークテストの平均点が、90点以上とすることができたか。</p> <p>②読書環境を整備し、学校図書館の貸出冊数が、1人52冊以上とすることができたか。</p>	<p>①学力向上カウンセリング研修等の実施や学びの指標に基づく学習活動を工夫して授業改善に取り組むことで、「学びの指標」アンケートの調査結果の平均値が、3.3ポイントとなった。また、ワークテストの平均点が、85.5点となった。</p> <p>②図書ボランティア(本の種まき)と連携し、読み聞かせなど学年の実態に応じた読書活動に取り組むことで1人58.2冊の貸出冊数となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題研修を推進し、「学習者が主体的に学ぶ授業」という視点に基づく授業改善に取り組む、児童の学力向上を図る。 D X推進部を中心に教職員のICT活用能力の向上に努める。 児童が本に触れる機会を設定し読書に対する興味関心を高める取組や学校図書館の環境整備を通じて、発達段階に応じた読書活動の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンを使った授業も良いが、手を動かすことも大切であり見落としは避けたい。児童の変容を見ながら検証を進める必要がある。 パソコンを使用する際、児童の情報に対する理解力の向上やリテラシー教育を徹底させていくことも重要である。
2	<p><現状> ○学校自己評価に係る児童アンケートで「毎日、元気に登校している」「いじめや仲間はずれなどせず友だちと仲良くできている」の肯定的な回答が95%以上となっている。</p> <p><課題> ○家庭や地域をはじめ、様々な関係機関と連携を図ることで児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に対応・支援をしていく。</p>	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援と相談に向けた校内支援体制の整備	<p>①心と生活のアンケートやおはようメーター、教育相談日等を実施し、面談等の記録を蓄積して、継続的に把握できるよう児童理解に努める。</p> <p>②常時委員会を中心として、生徒指導部、教育相談部、特別支援教育部、SC、SSWと連携を図り、迅速かつ誠実に組織的な対応を行う。</p>	<p>①アンケートの実施後や必要に応じて速やかに面談等を行い、保護者等と連携を図ることができたか。</p> <p>②学校自己評価に係る児童アンケートで「先生に困ったことや悩んでいることを相談できる」への肯定的な回答が80%以上、保護者アンケートで「相談や要望に対して誠実に対応している」へのA回答が50%以上とすることができたか。</p>	<p>①毎月の常時委員会や生徒指導週報等による児童の状況把握、必要に応じてケース会議を実施するなど組織的な対応と保護者への迅速な連絡により、課題解決に取り組んだ。</p> <p>②心のサポート体制を充実させ、児童一人ひとりに応じた支援を行うことで、学校自己評価に係るアンケートで児童の肯定的な回答の割合が75%、保護者のA回答の割合が44%となった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から児童が安心できる学習環境づくりを心がけ、引き続き児童の悩みや変化に気づけるよう相談力や危機意識、対応力の向上を目指した教職員の研修を実施する。 SCやSSWをはじめ関係機関とのさらなる連携を深め、迅速かつ組織的な対応、児童や保護者との相談活動を行い、児童一人ひとりの気持ちに寄り添った教育的支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童の家庭に対して、様々な情報提供をはじめ保護者との連携がとても大切である。 教職員のメンタルヘルスも必要である。 学校のきめ細やかな関わりを感じることができた。
3	<p><現状> ○運営協議会で、「かかわりあい・協働」をテーマに家庭、地域、学校(小・中・高)が連携しながら児童の心を育てていくことを共有した。</p> <p><課題> ○子どもの健全育成のための「かかわりあい・協働」に向け、学校運営協議会において児童会と連携を図るなど学校、家庭、地域との結びつきをより一層強める。</p>	・主体的な児童を育てるためのコミュニティ・スクールを通した保護者・地域とのより一層の協働	<p>①小・中・高・地域で連携した魅力ある事業を引き続き実施し、児童の地域に対する愛情を醸成する。</p> <p>②学校運営協議会の情報や学校行事等について、学校に関わる人々がHP上で閲覧できるようにする。目指す児童の姿等を広く家庭や地域と共有できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。</p>	<p>①学校自己評価に係る児童アンケートで「様々な地域の行事に参加する」への肯定的な回答が、85%以上とすることができたか。</p> <p>②学校自己評価に係る保護者アンケートの回収率が、70%以上とすることができたか。さらに、HPにコミュニティ・スクールのページを新設し、年3回以上の更新を行う。</p>	<p>①育成会の協力のもと教職員も参加協力して連携事業を実施し、学校自己評価に係る児童アンケートで肯定的な回答の割合が、81%となった。</p> <p>②HPを活用したつーじーの日記や安心メールで積極的な情報発信した。学校自己評価に係る保護者アンケートの回収率が、75%となった。また、HPにコミュニティ・スクールのページを新設し、3回更新した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 小・中・高や地域との連携を深め、各行事の情報周知や参加しやすい環境づくりを進めていく。 HPの更新頻度は充実しているものの、見やすさや伝わりやすさを工夫するなどして、より閲覧しやすいものに改善する。 児童参加型の学校運営協議会の実施と新設したボランティア制度のさらなる充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会への児童の参加が増えることよい。 辻地区の特徴である小中高地域連携のイベントが増えることよい。 地域とのコミュニケーションを大切にし、地域行事への教員の参加を促してほしい。 学校は幅広い方との関わりにより、さらに良くなる。 HPがよく公開されている。
4	<p><現状> ○施設の瑕疵等による児童のけがは起こらなかったが、施設の老朽化が進んでいる。</p> <p>○学校における情報資産を適切に取り扱っている。</p> <p><課題> ○事故防止に向け、定期的な施設の点検と危険な箇所の修繕を進める。</p> <p>○教育情報セキュリティ確保に努め、安心・安全な教育環境を維持する。</p>	・情報セキュリティに係る定期点検、施設設備の点検と修繕の徹底、迅速化	<p>①点検項目の共通理解を図り、毎月の安全点検日に全教職員で実施する。管理職が毎日点検を行い、危険箇所や修繕箇所を早期発見し、その都度関係機関と連携を図り、迅速な対応を行う。</p> <p>②チェックシートを活用し、学校における情報セキュリティ遵守の状況を毎月の月末に自己点検する。</p>	<p>①危険・修繕箇所の発見から対策を立て、1か月以内に改善に向けた対応を実施することができたか。</p> <p>②情報資産に係る事故の絶無に向け、「さいたま市教職員情報資産取扱いマニュアル」等の内容を基に、学校における情報資産の取扱いについて、全教職員が遵守することができたか。</p>	<p>①管理職による毎日の校内巡視と全教職員による毎月の安全点検を実施した。放送機器やトイレなどの修繕箇所を早期発見し学校予算または市教委への要望による解決を図った。施設の瑕疵等による児童の大きな事故は起こらなかった。</p> <p>②各種点検簿を整理し全教職員が定期点検を実施することで、学校における情報セキュリティを強化した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、老朽化した施設の修繕による環境整備と定期的かつ確実な安全点検を実施する。 児童が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、必要に応じて教育委員会と連携を図り、教育環境の整備に努める。 個人情報保護の徹底と教職員の情報セキュリティ研修を継続し、安心・安全な教育環境に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の故障等は、迅速な対応が必要である。 セキュリティ対策はよくできているが、児童にも理解させることが必要である。
5	<p><現状> ○ICTの効果的な活用に向け、情報端末やアプリ等の活用法について研修を重ねてきた。</p> <p>○会議の精選やデジタル化、ペーパーレス化をはじめ、業務改善に取り組んでいる。</p> <p><課題> ○逐次アップデートされる教育DXに適應できるように、組織的に取り組む必要がある。</p> <p>○教科担任制等で高まった同僚性を活かし、より働きやすい職場にしていこう。</p>	・同僚性を高めたWell-Beingな職場環境の構築と業務改善	<p>①会議資料のデータ化やチラシなどの配付物のWeb化を進める。校務用端末を効果的に活用するなどして、校務のICT化による業務改善を推進する。</p> <p>②管理職が率先して職員室の同僚性を高め、支え合い、高め合う職員集団にする。</p>	<p>①教員等の勤務に関する意識調査で「学校業務改善の取組」への肯定的な回答が、90%以上とすることができたか。</p> <p>②教員等の勤務に関する意識調査で「風通しのよい職場である」へのA回答が、70%以上とすることができたか。</p>	<p>①教職員間の情報共有や連絡、保護者連絡などクラウドでの校務を推進したことで教員等の勤務に関する意識調査で肯定的な回答の割合が、93%となった。</p> <p>②教職員が意見を交わしやすい環境づくりを進めたことで、教員等の勤務に関する意識調査でA回答の割合が、75%となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用の理解や活用状況にばらつきが出ないよう研修を重ね、クラウドによる授業や校務を推進し、ペーパーレス化をはじめとした業務改善に取り組む。 教職員が毎日元気に子どもと向き合える職場環境の充実に向け、互いに支え合い学び合える職員集団づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化が全てではなく、紙とデジタルのそれぞれの特徴を考え、無理のないペーパーレス化を行うことよい。 同僚性も大切だが、教職員と管理職の上下関係ははっきり残しておく必要はある。